

共学

玉川学園中学部・高等部

東京都
町田市

徳・知・体のバランスを大切に 世界で豊かに輝く人格を育てる

創立者の想いを受け継ぎ、三育並進の全人教育を目指す

1929年の開校当初、創立者の小原國芳は中学部の生徒たちに「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」という聖書の一説を贈りました。本校では、この「知恵が加わり」を、基礎学力を培う「知育」、「背たけも伸び」を、基礎体力を育む「体育」、「神と人から愛された」を教育活動のすべてが「徳育」であると捉えています。この3つを調和させて育てる「三育並進」こそが、「全人教育」の核心です。

教育の役割は、単に知識を詰め込むことでも、ただやさしく見守ることでもありません。本校では社会で活きる真の人格を育む「12の教育信条」を掲げています。その一つが「学的根拠に立てる教育」です。生徒の小さな成長を見逃さず、肯定的なフィードバックを言葉にして「伝える」。これが理論上、非常に効果的なアプローチなのです。

私の吹奏楽部での経験でも「音が良くなったね」と言葉をかけられた生徒は、見違えるほど伸びていきました。逆に「テストが悪いから部活を停止する」といった「負の強化」は望ましい成長につながりません。肯定的な言葉の力を信じ、生徒自らが前を向く指導を徹底しています。

探究学習や国際教育を通して本物にふれ、多角的な視点を

玉川学園が長年培ってきた「自由研究」は、生徒が主体的に学び、表現する力を養う場です。また、中学部では社会と地続きの学びとして「SDGs」の授業にも注力しています。企業と連携し、「サーキュラーエコノミーの実現に向けた取り組みの提案」をテーマに議論を重ね、プレゼンテーションを行う産官学連携の取り組みがその一例です。自らの学びが社会とつながっている実感が生まれます。

さらに、国際教育プログラムも多彩です。世界各国での研修や、来日する海外交流校の生徒との交流機会など、国内外を問わず、本物がもつ手ざわりや空気感を肌で感じ、多角的な視点を養ってほしいと願っています。



中学部長
土屋 和彦 先生



「中学３年で一本の論文を書き上げるという、生みの苦しみと達成感の両方を味わうからこそ、高校１年から再び開始する『自由研究』の質が格段に高まるのです」と土屋先生。



教科学習から芸術、スポーツまで19分野から選べる自由研究。「立体造形」の陶芸の現場では、泥汚れも気にせず無心に土と向き合い、瑞々しい作品を作り上げていく生徒たちの姿がありました。

特長ある学び

主体的に学び、表現する力を養う「自由研究」で徹底的に自分と向き合う貴重な時間を

無心になって自分と向き合う自由研究の「陶芸」の時間

熱気あふれる陶芸アトリエで、生徒たちが一心に粘土と向きあっています。玉川学園では毎週2時間、自由研究の時間があり、教科学習や芸術、スポーツ、語学など、自ら選んだテーマを1年間かけて探究します。

「陶芸」を指導するのは、プロの陶芸家であり、同校の卒業生でもある井上恵介先生です。井上先生自身、中学部の自由研究は「工作」でヴァイオリン製作に没頭し、高等部では「バスケットボール」。クラブ活動では主将を務めながら、高3の自由研究で「陶芸」に出会ったという経歴の持ち主。「私にとって自由研究は、自分の本領を発揮できる場所でした。ひたすらヴァイオリン作りに没頭した日々。当時は無になれる時間だと思っていましたが、振り返れば、徹底的に自分と向きあえる時間だった」と語ります。

「工作」分野では、現在でも、木工によるヴァイオリン製作など、各自が選んだ創作に集中します。基本技法は教えてもらいますが、あとは型にとらわれずに製作してよく、生徒たちの自由な表現を支えています。

中学3年は「学びの技」で論文作成に挑戦！

中学1・2年で感性を磨いた「自由研究」は、中学3年から、1年をかけて論文作成やプレゼンテーションの手法を体系的に学ぶ「学びの技」へとつながります。自由研究と同じく授業は週2時間。オリジナルテキストを活用し、「好奇心を持つ」→「多角的に見る」→「情報の取捨選択をする」→「論理的にまとめる」→「論文執筆・発表する」→「評価する」という、一連のラーニングスキルを習得していきます。

研究テーマは、生徒自身が日常の疑問から設定します。「学校に仮眠制度は必要か」「リビングは本当に勉強に適しているか」「給食に牛乳は必須か」など、切り口は実にユニークかつ多種多様。生徒一人ひとりに指導教官がつき、伴走します。指導する教員側も、筑波大学の研修に参加して論理的思考や文章指導のノウハウを学んでいます。大切にしているのは、生徒が選んだテーマを否定しないこと。論文としての構成力を身につけるプログラムだからこそ、テーマはできるだけ絞る、といった手法のアドバイスに徹し、生徒の自主性を尊重しています。

ここにも注目！
ビタママ eyes

20年以上続く、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団員との教育プログラムで、世界最高峰の響きを体感します。演奏会は、キャンパス内にあるコンサートホール「Marble」で行われています。



「本物にふれる教育」が物事を探究する目を養う

「自らの手でふれ、体感したものだけが揺るぎない生きた知識になる」との考えから、玉川学園が創立時より大切にしているのが「本物にふれる教育」です。その精神は今も引き継がれており、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団との教育交流や、ジャズ・クラリネット奏者の谷口英治氏を招いた鑑賞教室などが継続して行われています。「一流の本物にふれて何かを感じ、それを表現する。その繰り返しが、物事を深く探究する目を養うのです」と中学部長の土屋先生。教科学習だけでは得られない人間性の素地を育んでいます。

ココが好き!

水族館のような大きな水槽でいろんなサンゴを研究しています!

サンゴ研究部で、沖縄のさまざまなサンゴを育てながら、水質や種類による成長の違いなどを研究しています。中学2年のときには、学生や研究者の方々が集う日本サンゴ礁学会に参加し、サンゴの成長を種類別に比較分析した研究内容を発表しました。また、夏休みには、校内の水槽で大切に育てたサンゴを元の海へ戻すため、サンゴ研究部のメンバーと沖縄を訪れました。インストラクターに教えてもらって、初めてのダイビングも体験しました。少し怖さもありましたが、実際に海の中に入り、「本物を見る」ことの素晴らしさを実感しました。自分たちが育てたサンゴを海へ戻すことができ、とても貴重な経験になりました。



サンゴ研究部は大規模な水槽などの設備も充実。大学の研究室や専門家、企業とも連携し、サンゴの研究・研修・飼育・養殖活動を行っています。

「玉川学園の昆虫の多様性」をテーマに大好きな昆虫を研究しています

「多くの昆虫に出会えそう!」と思ったのが玉川学園を選んだ理由の一つ。登下校時には虫取り網を携帯し、いつもたくさんの昆虫を見つけています。僕は昆虫を飼育するより、「探して、記録して、逃がす」スタイルが好きなので、そのつど図鑑で正確な種類を調べながら記録しています。自由研究も「玉川の畑における昆虫の多様性と生態系での役割」をテーマに、1年を通してキャンパスの畑周辺にいる昆虫を中心に調査。昨年の玉川学園展では、「銀賞」を受賞しました。

設備が充実!理科好きやスポーツ好きにもおすすめの学校!

玉川学園はスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定校です。そのため、サンゴ研究部の施設だけでなく、理科教育の専門施設「サイテックセンター」など、大学レベルの高度な研究施設が充実しています。そのほか、タータントラックや50mの温水プールなど、運動施設も充実。キャンパスが広く、毎日の登下校自体が運動になるのも嬉しいですね。また、2027年には新しいプールも完成するそうで、これからも学校の環境を最大限に活用しながら、楽しい学園生活を送りたいと思います。



サイテックセンターは、化学、生物、物理と、分野ごとにフロアが分かれている理科教育の専門施設。各フロアには、理科への興味を喚起する工夫がされています。



「つめかえパック回収率アップに向けて ～町田市みんなでつくろう 水平リサイクルな未来～」をテーマに、企業と町田市のコラボで産官学連携授業を開催。



「調理」の自由研究では、生徒たちが琥珀糖をつくっていました。砂糖の再結晶を観察しながら、レポートにまとめていきます。



昆虫が好きだから、自然あふれる玉川学園を選びました

中学3年
Sさん

玉川学園

学校の

今年から入部した放送・舞台技術部。体育祭のアナウンスを頑張りたいです!

今年から「放送・舞台技術部」に入部しました。みんなで人気アーティストのミュージックビデオ風の動画を撮影したりして、中・高あわせて約25名の仲間たちと一緒に、楽しく活動しています。

主な活動として、学校行事やイベントの司会・アナウンスを担当することが多いです。7月の音楽祭では終演のアナウンスを任されました。10月の体育祭でも、部として場内アナウンスを担当します。アナウンスブースは、すべての競技が見渡せるグラウンドの上にあり、ここから競技の紹介や進行などを行います。今後もしっかりアナウンスできるように頑張ります!



体育祭は、幼稚部生から大学生まで一堂に会します。「中学3年から高校3年の女子は、ポールを使ったデンマーク体操を発表しました」とIさん。

生徒一人ひとりに先生がやさしく寄り添ってくれるのでとても心強いです!

小学校時代は目立つことが苦手なタイプでしたが、玉川学園の開放的なキャンパスと自由な校風のなかで生活するうちに、自然と積極的に動けるようになりました。玉川学園は先生方との距離が近いのも魅力です。わからないことや悩みなどがあったときは、いつでも気軽に相談できます。また、生徒一人ひとりのことを普段からよくみてくださって、しっかりと寄り添ってくれるので、安心して学園生活を送ることができています。



以前参加したカナダ研修では、親しい友人がいないグループに。英語もあまり話せず不安でしたが、先生方の声がけが支えになりました。



開放的なキャンパスで、自分の「好き」を探究できます!

中学3年
Iさん

楽しい行事がたくさん!昨年の玉川学園展の自由研究では身をもって「検証」!

玉川学園には楽しい学校行事がたくさんあります。今年からスタートしたTGF(Tamagawa Ground Festival)では、私のクラスは来場者も参加できる「腕相撲対決所」を設置。生徒主体で進めたのでとても盛り上がりました。また、昨年の玉川学園展では、私の自由研究が「銀賞」を受賞しました。テーマは「腹筋を割るために、最も大切なことは?～1カ月の失敗から学んだ改善策～」。実際にお菓子や甘い飲みものを断ち、腹筋を続けると体にどのような変化が現れるのかを研究しました。



School Life



中学2年のカナダ研修では、雄大な自然を満喫。カヌーやキャンプなど、アウトドア・アクティビティーに挑戦しました。



サンゴ研究部では、幅広い種類のサンゴを飼育。水槽で育てながら観察します。最終的には、生徒自身が沖縄の海に戻しています。

玉川学園
中学部・高等部
042-739-8931(学園入試広報課)
東京都町田市玉川学園 6-1-1

ビタミンママonlineでは、各校独自の特長ある取り組みや校長先生のお話など、学校選びに役立つ情報を配信中!
Webサイトでほかの情報もチェック!